

府中かんきょう 市民の会

2003年 冬号
1月8日発行／季刊
発行人：横山永望
連絡先：府中市浅間町4-18-12
TEL & FAX：042-362-2684

賀正



『野の花』（桑原巨森）、紅葉丘中央公園

『府中かんきょう市民の会』に期待する

小倉 紀雄（東京農工大教授）

21世紀初頭の府中市の基本的な環境施策となる環境基本計画素案が多くの方の手によりまとめられ、それを基に府中市環境審議会で作成し、この1月に市長へ答申します。市民により作成された環境保全の推進計画を尊重した基本計画ができあがったことは大変素晴らしいことです。

素案の作成や環境審議会での検討に「府中かんきょう市民の会」の多くの会員の皆さまが参画し、重要な役割を担ってきたことを高く評価します。

「府中かんきょう市民の会」は発足して3年ほどですが、その多方面にわたる積極的な活動は大変印象的です。府中の環境を総合的に、また長期的な視野で考え、水やさまざまな物質の循環のバランスのとれたまちをめざすために、「府中かんきょう市民の会」は時代の要請に応える重要な役割を果たしています。

21世紀における府中のまちづくりや環境の保全のため

に、市民・行政・企業・専門家が協働し、一歩ずつ進むことは大切なことです。

東京農工大学では市と連携し、附属の本町水田を学校教育に活用し、コメづくりの体験や水田の機能などの学習を行うフィールドとする計画が進んでいます。開かれた大学を目指し、市民の方との交流も一層活発になると思います。

いま府中の環境を考えることは単に地域の問題だけではなく、さらに広域の環境や地球規模の環境を考え、保全することにもつながります。「府中かんきょう市民の会」に期待する活動は、身近な水や緑などを長期間にわたり監視することです。長期間の監視により身近な環境の変遷が明らかになり、その保全や修復のための具体的な活動など適切な提案が可能になります。快適で自然豊かなまちづくりのために、会員の皆さまが地域のリーダーとして、一層活躍されることを期待しています。

用水路の生き物調査

農工大研究室と共同で実施

2002年春より、「府中かんきょう市民の会」と農工大の農学部水資源計画学研究室が共同して調査やイベントと取り組んできた。各分野で市民参加や市民との連携が話題となっているが、当研究室でも専門知識・技術などを地域に還元するため、市民団体を含めて学外の専門家や地域の企業と共同企画を行っている。

稲穂が稔り、秋の風情が感じさせる府中市四谷地区の用水路で、「府中かんきょう市民の会」主催の生物調査を行った。これまで2年間「ヒガンバナを観る会」として実施されてきた観察会を、3年目は研究室との共同企画として調査することになった。

実施日は2002年9月15日(日)9:30～14:00、参加は子ども3人を含む16人。目的は、大切な地域資源である農業用水路や水田の価値の重要性を確認し、そこに展開する生態系を知り、それを構成する生物に親しむことである。調査内容は、水路環境が異なる2つの地点で魚類を中心とする生物を採捕し、種類と個体数を把握すること。

調査結果		
調査地点	稲荷神社北 水田の横	日新小西 林の間
調査日	9月15日	9月15日
調査時間	10:00～10:30	11:00～11:30
天気	くもり	くもり
気温	21℃	21℃
水深	普通	浅い
流速	遅い	普通
底質	泥	泥・石
周辺環境		
周辺の木の有無	少ない	多い
水草の有無	ある	少し
水田の有無	ある	ある
採れた生物(個体数)		
オイカワ	19	35
アブラハヤ		2
タモロコ	1	10
モツゴ	1	1
トウヨシノボリ	1	12
アメリカザリガニ	54	34
カワムツ		7
ヌカエビ		1
ヤゴ		1

水田横の水路は流速が遅く、底質も泥であり、仔稚魚やモツゴの好む環境であった。今回は採捕されなかったが、同年8月に当研究室が行った調査では、ギンブナ、ナマズも採捕された。

林の間では水田横に比べ多数のトウヨシノボリおよびアブラハヤやカワムツなど、河川本流に多い魚種が採捕された。流速が速く、上流部分の底質が石になっていることが影響していると考えられる。



参加者の感想「用水路にこんな魚がいたのかと驚いた」「子どもはそのことをどのくらい知っているのだろうか」「大きい魚やフナがいないのはなぜか」「ザリガニを放っておいていいのか」などの感想がだされた。

今回調査した水路が季節通水であること、水深が浅いことが、大きい個体が採捕されない原因と考えられる。また、フナをはじめ魚には季節的な移動・分散があると考えられる。

アメリカザリガニが外来種であり、日本固有の生態系を攪乱することについて参加者の理解は相当高かった。古くから移入しているため懐かしく思う人や親しみを感じる人が少なくないが、生態系を考えた場合には全面駆除を行うべきである。本来ここにいる生き物ではないので、捕まったら死ぬまで家で飼うという指導や、在来種のニホンザリガニや川エビを取り戻そうという動きを盛り上げたい。(皆川明子／東京農工大農学部地域生態システム学科)

府中基地跡地を見て歩く会に参加して

小春日和の昨年11月17日、府中美術館前に集合した会員10人は一本木通りを生涯学習センターへと向いました。フェンスから2～3mは雑草が刈り込まれ、今までと違います。オフィスだったと思われる古いコンクリートの建物の残骸は変わらず、上をカラスが飛びかっています。樹木の手入れはほとんどなく、根元から無残にも折れて倒れています。カメラのシャッターの音が頻りに聞こえます。駐車場前を通り平和の森公園の四阿で休息し生涯学習センターの東側に出ました。金網の門があり有事には開くのでしょうか。大きなパラボラが二つ見え、住宅棟だったと思われるバルコニー付き三階建てのツタに覆われた建物が現れました。二棟あります。樹木が少なく雑草は刈られているのか森林公園の感じです。民家や都営住宅が周りを囲んでいるので、気遣いがあるのでしょうか。ツタに覆われた建物が見え、離れた所には戸建ても鬱蒼とした木々の中にありました。

街道沿いは鬱蒼としていて、フェンスの中のフェンスで仕切られた部分やコンクリートブロックの中は木々が茂り放題です。囲いの中を車両が走り回っていたのでしょうか。幅4mのコンクリートの道が見えます。一巡して不気味な感じがする所もありましたが実踏してみると、予想したイメージとは少々違っていました。

(大草 郁子)

まず市役所から削減、温暖化ガス

府中市職員エコ・アクションプラン

府中市は地球温暖化の防止に寄与することを目的として、市の事務事業の実施に伴う環境負荷を低減するため、平成13年4月から「府中市職員エコ・アクションプラン」を実施しています。

府中市職員エコ・アクションプランの取り組みは、できることから始めようとするもので、「昼休み及び就業前後の消灯」「OA機器の未使用時の電源を切る」「毎週水曜日はノーカーデーの実施および水曜日以外の車もできるだけ乗らない」「車のアイドリングを止める」「階数の差が3階までおよび下りのエレベータには乗らない」「給湯器の湯水を流しながら使用しない、ガスの火種は午後4時30分には消す」

「コピー機の未使用時はリセットボタンを押す」「シュレッダーの未使用時は電源を切る」「コーヒーマーカー・電気ポットは使用しない」「会議室の冷暖房温度設定を適正にする」など、簡単な23の行動を中心として、各自または課を単位として実施しています。全庁的な取り組みとしては、冷暖房温度の設定、省エネ機器の購入、自動販売機の消灯などです。

これらの各項目に、問題点を整理作成し、職員にアピールしています。例えば、給湯器について水は貴重な資源であり、その節約を呼びかけた上で「ガスの使用量は種火で0.03立方m/時間、使用時に0.54立方m/時間です。お湯を流せばなしにすることは、ガスと水を捨てているのと同じです。職員が4時30分に種火を消すことは警備員が消すことに比べて約2時間、1台でガス約15立方m/年、CO₂約32g/年が節約できる。庁舎12台で…」また「コーヒーマーカー、電気ポットは、蛍光灯25本分の電気料、業務に必要なもの以外は使用しない」として電気ポットを撤去した、などです。

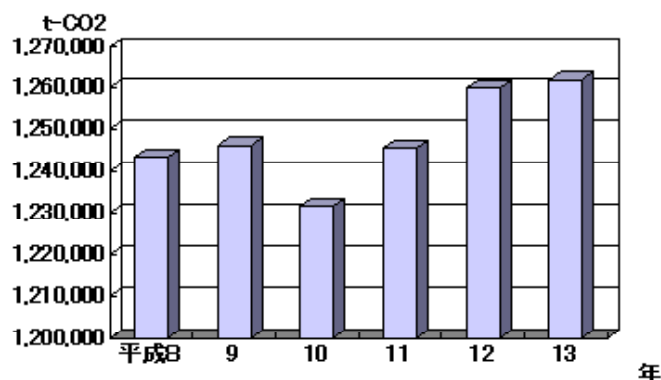
これらの結果、府中市役所は、平成13年度は平成11年度に比べて温室効果ガスの排出量をおよそ3.9%（約400トン）削減することができました。しかし「まだ環境負荷を低減する余地は十分ありそうだ。『地球環境の保全のための環境負荷低減』に行動のウエイトを置けば、自分たちが今、何を選択すべきかの答えはおのずから出てくると思う」と環境保全課の青木主幹は話します。



府中市全域では、電気やガスの使用量などから推定した二酸化炭素の排出量は年々増加しています（グラフ）。市民も、現状で出来るところからの環境負荷低減の工夫をしています。写真は、市民のパーティで、飲み残しや食べ残しを少なくするため、使用した紙コップと皿に、名前が記入されています。食べ残りは持ち帰っています。コップや皿の使用量も減少しました。

府中市全域で、温室効果ガスの排出量を減少させることが期待されています。府中市職員エコ・アクションプランがそのための参考になればと思います。

（田中 正仁）



●データ提供：府中市環境安全部環境保全課主幹 青木文男氏

●注：温室効果ガスの排出量：燃料使用量、電気使用量、自動車走行距離（ガソリン、LPG、軽油、電気）、フロン類の使用量、一般廃棄物の焼却、プラスチックの焼却の量をもとに、それぞれ排出する温室効果ガスを算出し、ガスごとの温暖化の影響の度合いをCO₂に換算したものの総和。

成人式を迎えた浅間山自然保護会



冬の陽に照らされる浅間山

1982年4月4日、浅間山自然保護会が紅葉丘文化センターで産声をあげてから昨年4月で満20歳となりました。「継続は力なり」です。初代会長木村文武さんを中心に諸先輩の努力でここまで続けてきました。10周年祝いは府中の森芸術劇場で盛大に行われましたが、20周年は控えめに昨年9月に浅間町会館で行いました。都西部公園緑地事務所、都公園協会、野川公園、武蔵野公園、そして府中市から市長代理、緑のまちづくり推進課、明星学園、若松小、二小、十小の各校長先生、長野県人会、野鳥クラブなど多数の来賓を迎え、なごやかでした。

会活動20年を振り返ってみますと、浅間山は昔から薪炭林と肥料用落葉の採取地としての雑木林でしたが、いろんないきさつを経て1970年に都の公園に指定されたのです。しかし都は雑木管理をしなかったため樹木は伸び放題、蔓草やアズマネザサが生い茂っていました。園路はオートバイや乗馬の練習場所で、またホームレスの住処となっていました。

見かねた初代会長らが、浅間山自然保護会を結成したわけです。

会は巡回・監視が重要な仕事で、それも怖いので2人組で遠くからメガホンで呼びかける有様でした。春先は子どもらの爆竹で火事になり、懸命に消火したことも何回かありました。立て札をたてたり、自然観察会も開くなかで少しずつ山の様子も変わってきました。

しかし樹木はどんどん育ち、「ムサシノキスゲ」や他の山野草は日照不足で減少してきたので、都に間伐を申し入れました。ようやく試験的伐採からはじまり、定期的伐採となるに従い、山野草も回復してきました。

1993年から始めた「キスゲフェスティバル」は大好評で、多くの市民に「ムサシノキスゲ」の存在を知ってもらえるようになりました。最近を訪れる人々のマナーも良くなり、問題は少なくなっています。

現在の会の主な活動は、植物観察会、「キスゲフェスティバル」、全山清掃、蔓草刈り、椎茸駒打ち体験、そして特に、近隣小学校の「総合学習」の講師活動です。

これらは20年間の活動のほんの一部です。会では府中が誇る貴重な自然が残る浅間山の自然保護に、市民と一緒に頑張っていきたいと考えています。

(横山永望／浅間山自然保護会相談役)

野鳥観察を通し身近な自然を大切に

私たち府中野鳥クラブは結成20年周年を昨年3月に迎えました。この長期間における活動を当初からの会報「やちょう」で見ますと、探鳥会で野鳥の生き生きとした美しさに感動している仲間たちにベテラン会員が、その特徴などについて親切に話している光景が目には浮かびます。私も同じような楽しい体験を通じて、諸先輩から沢山のことを教えて頂きました。

結成以来、当クラブはこうした和気あいあいとした気風のなかで、野鳥を観察して自然に親しみ、楽しく学び親睦を深めることを基本の一つとしています。

また野鳥観察を通じて自然のしくみを深く理解することにより、自然保護の心を育て広めることも目標の一つとしています。

野鳥は環境のバロメーターと言われます。カラスやスズメと違って、自然環境が悪くなると、それに適応できず、すぐに姿を消し、絶滅に追い込まれてしまう野鳥もいます。その種はそれだけ環境の変化に敏感なものであり、身をもって人間に環境悪化を警告していると言えます。

当クラブには、今日まで継続してきている20年間の野鳥観察記録が蓄積されています。これは野鳥を通じて府中市域における自然環境の変化を見るうえで貴重な資料となります。この資料を編さんして記念誌の発刊を準備しています。

先日、テレビで街角の大ケヤキが切り倒されるとの報道がありました。理由は落葉に対する近所の苦情です。緑の恩恵を忘れて落葉を嫌う人も、砂漠に住めば木を植えろと主張するでしょう。身近な自然を大切にすることの問題ではないでしょうか。これでは神社仏閣の樹木も消え、自然のもつ街の文化的遺産も失われ、安らぎのない住みにくい街と化してしまいます。

府中野鳥クラブは、浅間山自然保護会とキスゲフェスティバルを行ったり、文化センターの探鳥会、学校関係の探鳥会、府中市グリーンフェスティバルへの参加、府中市や都行政との協働による自然保護の活動などを行っています。今後も環境問題の現状をふまえて、皆さんと共に自然の「保護と復元」に努めていきたいと思ひます。

(大室 清／府中野鳥クラブ会長)

芝生化で、心と体がはずむ子どもたち 緑の校庭、和泉小学校（杉並区）を訪ねる

府中市の環境基本計画案の作成が進んでいる。この計画のなかで「校庭の芝生化（草地化）などエコスクール化」が重点項目のひとつにあがっている。

本計画の素案を検討した市民から提案された経緯があるが、是非とも実現させたいものだ。

すでに文部科学省も「屋外教育環境整備補助事業」として芝生化を推進し、費用の1/3を援助している。これによって300平方メートル以上の校庭を芝生化した全国の小中学校は、すでに5年間で200校を越えている。

昨年春に芝生化を実現し、芝の成長期を含む約10カ月間、芝生グラウンドを「体験」した杉並区立和泉小学校を、神田川の桜がすっかり落葉した昨年12月、会のメンバー数人が訪ねた。



芝生はみんなの宝物 心をこめて世話をしよう
(和泉小学校の「学校案内」より)

井の頭線の永福町駅から歩いて数分。杉並区和泉2丁目の神田川沿いにある和泉小学校（児童約300人、野崎佳子校長）の正門をくぐると、緑の芝生が目に見え、鮮やかだ。

杉並区の「学校エコアップ」の方針のもと、ビオトープ設置や校庭芝生化に取り組んだ最初の2校の1校となった和泉小学校。区教委が校庭の緑化希望校を募ったときに、同校が全面芝生化を強く希望し、実現したという。野崎佳子校長は「やらない理由は十ほど並べられるが、やろうと全員一致で決めました」と、環境の世紀の初めにふさわしい決定だったと当時を振り返る。

「心と体がはずむような芝生」（校長）は、校庭のほぼ全面（2,575平方メートル）を覆い、思わず「これが小学校？！」と口にでかかった。工費約3千3百万円は、ほとんどグラウンドの排水基盤と土壌改良に使われた。播かれた芝はケンタッキーブルーグラスなど洋芝3種の混合で、冬の季節も子どもたちは自由に緑の芝生のうえで、のびのびと運動や遊びができる。

和泉小学校は「ふるさと和泉・地域の中にある学校」をめざし、商店会との交流やお店への「弟子入り」体験など、地域に根ざした学校活動を進めており、芝生化にあたって、こうした地域の支えが大きな存在となっている。

具体的には芝刈りなどの維持管理は「芝生の手入れ」と呼ばれ、子どもたちも芝刈りをする（写真）ほか、教職員や地元の町内会やPTAなどもボランティア組織「和泉グリーンプロジェクト」のメンバーとなって「芝の手入れ」をする。

5カ月に及ぶ芝生化の工事中は隣の中学校のグラウンドを借りたり、子どもたちに芝生の種をブランターに播かせて、成長の様子を観察カードに書かせるなど、芝生の成長とともに、子どもたちの芝生にたいする愛情も育ってきた。

校長は「芝生の上で走ったり、踊ったり、体をぶつけあったり、堅い土のグラウンドにはない芝生の効果を生かす授業をしている」と語る。

子どもたちは「刈った芝生のさわりごこちは最高だ。刈った芝生はまるで美容室へ行って、かみのけを切ってもらった人ようだ」などと新鮮で前向きだ。次の「和泉の芝生かわり三か条」は、芝生とのかかわりのなかでの子どもたちのこうした声をまとめたもので、学校の芝生の憲法のような存在となっている。

和泉の芝生 かかわり三か条

- 1 和泉の芝生は友達だ
大事にやさしくふれあおう
- 2 芝生と仲良くするために
芝生の上でたくさん遊ぼう
- 3 芝生はみんなの宝物
心をこめて世話をしよう

「芝生そのものというより、芝生と取り組もうとする先生方とPTAがいることが一番大切です」…校長の別れ際の言葉が印象的だった。

芝生化することは、そんなに難しいことではないが、その後の維持管理にはこうした和泉小学校のすばらしい教育実践が必要・不可欠であるように感じた。

（館 浩道）

問題多い西府崖線の保全

府中市を東西に走っている崖(ハケ)は、府中崖線、武蔵野崖線の二つがあり、府中崖線の府中市西部が西府崖線です。崖のすぐ下に府中用水が流れています。湧水も涸れることなく年中水温は10数度を保ち、道行く人々の心を和ましてくれています。

この湧水の約150m東に水のしたたる(雨の後は「湧水」になる)横10mほどの大岩(写真)もあります。辺り一帯にサワガニ、カワニナ、トンボなどの生き物が見られています。植物もシラカシ、シロダモ、ニセアカシアや20m前後のケヤキも目立ち、野鳥が好むムクノキ、エノキの大木もあり、自然林の残っている貴重な場所です。



渡りの季節にはカッコウ、キビタキ、オオルリ等が羽を休め、冬にはアカハラ、シロハラ、アオジ、ツグミ等が見られます。木の実の季節にはイカルが群れ、モズの鋭い鳴き声も聞きます。ときには崖線下の小川にカワセミも見られたりします。

大変貌 昨年9月、この崖線に大変貌がありました。府中市はこの森の保全のためと説明していますが、崖線の森と周辺の木や草が大きく刈り込みされました。この問題について、私は次のように見ています。

崖崩れ 崖線の上の道(あずまやの裏)で、昨年9月初めと10月の台風で小規模な崖崩れが発生。「この辺りは、冬鳥(シロハラ、アカハラ、ツグミ)の捕食・生息地です。コンクリートにしてしまうことは止めて下さい」と市へ提言しました。昨年12月初め、杭打ちし柵をして、とりあえずコンクリート化はまぬがれました。

かなり太い木も切り取られた 市は森の保全のためと言っていますが、かなり太い木も切り取られています。これらの木は、この森を作り上げるに欠かせないものもあると思います。崩れ止め柵の中の太い枝も、自然に生えたとは思われない直径数cm以上の幹の木も多く切り取られています。土の崩れは、木で止めるより、柵で止める方が良いと考えますが、どうでしょう。

刈り込み後に廃棄物 切り込み／刈り込み後、廃棄物で汚れています。自転車、タイヤ、危険なところに捨てられたものや目立ちにくいものが残されています。「プラ

スチック塚」など、現代の「貝塚」にしたくないところです。

剪定時期は、台風の時期、紅葉や雑木の実の成熟する時期を終えてからにすれば駄目なのでしょうか。いづれ台風で折れる枝が発生します。紅葉を楽しむ、鳥達が餌をついばむようになると思います。

「枝の切り方」に 小枝を残す、幹から切り落とすの区別がよくわかりません。あずまやの横とたれ水の大岩の横に大きな、初夏には美しい花をつけるフジの木がありましたが、下の方から切り取られました。邪魔ならばもう何年も前に切られても良いと思います。更に、雑木はバツサリと切り取られていますが、シュロは意図的に残されているようで、疑問を感じます。

崖線の上の道では、昨年8月に電線に沿った枝が切り取られて放置されました。放置は現在見られませんが、何故こんなに短い間に刈り取りを2度もしたのかよくわかりません。また、崖線の上の道端・西府文化センターの南西に桜の木がありますが、昨年初夏以降のいつか？に剪定されたばかりです。

私たちの役目 この西府崖線が、少なくとも現在の姿を維持し、後生に残すことは私たちの役目ではないかと思っています。府中全体から見れば、わずかの土地でしょうが、私たちの暮らしにうるおいを与えてくれる崖線の森は、府中市の宝であり、お互いに守り保ってゆきたいものです。(田中正仁)

東京大気汚染裁判と府中の大気汚染

昨年10月末、6年間争われた東京大気汚染公害裁判の判決が東京地裁で言い渡された。高橋利文裁判長は、都内の幹線道路10本の交通量が著しく多い道路端約50メートル以内に住む7人の原告についてだけ、ぜんそくと自動車排ガスとの因果関係を認め、これら幹線道路を管理する国交省、東京都、首都高速道路公団に合計7920万円の支払いを命じた。

国など道路管理者にたいし環境・公害対策が厳しく批判されたのはこれで5度目だ。東京都は「多数の健康被害は全社会的問題で先送りできない」として、控訴しなかったが、国の排ガス規制責任を問わなかった判決は承服出来ないとした。

東京 大気訴訟の最大の争点は、従来の大気汚染公害訴訟が、工場からの汚染物質の一般環境への排出もしくは自動車からの排ガスとの複合汚染が争われたのにたいし、今回は、都内の道路を走行する自動車、特にディーゼルトラックの排ガス被害のみが問題とされ、そうした「欠陥車」を製造販売したディーゼル車メーカー7社を、道路管理者とともに被告として争われたのだった。

裁判長は都内の全域を汚染している排ガスの「面的汚染」や、排ガス中の汚染物質の排出差し止め、そして自動車メーカーの責任を認めず、これらの請求を棄却した。

しかし判決では、大気汚染原因の認定でディーゼル排ガスに含まれる二酸化窒素と粒子状物質…SPMが、居住者の健康に被害を及ぼし、ぜんそくなど呼吸器疾患を発症させ、または悪化させていることを明確に認め、さらに今日の大気汚染公害の主役が自動車排ガスであることを明確に認定した。

また訴えが認められた7人の原告のうち1人は、公害健康被害補償法から切り捨てられていた、いわゆる未認定患者であり、わずか1人(2～4次提訴で未認定患者原告は184人、東京の未認定患者は推定で数10万人)であっても裁判所が未認定患者への賠償を命じたことで、うち切られた公害被害地域再指定などの現行補償制度の改善、未認定患者にたいする医療・生活保障問題に大きな展望を開くものとなり、石原都知事も、国に救済のための新制度を求めた。

問題は、原告が訴えていた排ガスによる汚染物質の「面的汚染」について裁判所がこれを認めず、原告側提出の広域にわたる汚染状況のシュミレーション結果には無理があり採用できないと退けたことである。この結果、原告の大部分の訴えが棄却される結果となった。

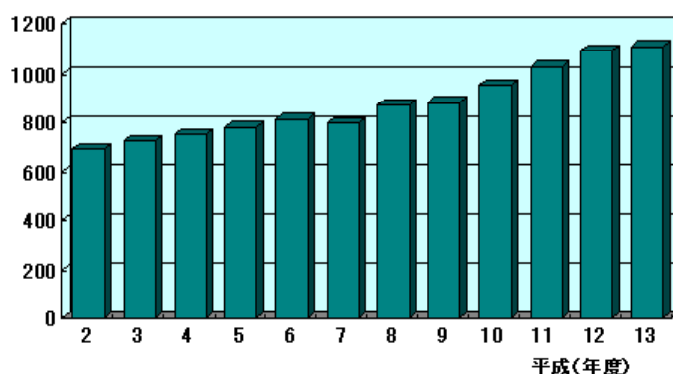
判決では、多くの原告が「面的汚染」でぜんそくなど呼吸器疾患となったとの訴えについて、裁判所は個々の因果関係を検討せず、幹線道路の沿道幅50メートルの線引きのもとに切り捨ててしまった。理由は、たしかに都内地域で環境基準を上回る排ガス汚染が存在していても、基準値を上回ったからといって健康被害を及ぼすものではないという理屈である。

府中でも大気汚染は年々悪化している。浮遊粒子状物質…SPMについては押立、四谷測定局が毎年において環境基準を上回っているし、二酸化窒素については押立測定局が環境基準を越えている状況が毎年の市の測定で確認されている。また、これを裏付けるように、市民によるNO2簡易測定運動でも、甲州街道、府中街道、国分寺街道、小金井街道といった市内主要幹線道路沿道から、軒並み環境基準を越えるデータが得られている。

下図は都が行っている大気汚染患者のための医療費負担制度で認定された18歳未満の患者数の推移である。平成2年度において690人であった患者数は、平成13年度には1,108人と1.6倍の増加となっている。これらの70%から80%は小学生以下の子どもたちであり、府中の大気汚染が年々悪化して、人の健康に重大な影響を及ぼしている重要な指標と言えないだろうか。しかし裁判所はこうしたデータをとりあげなかった。またこの事実は自動車排ガス汚染が幹線道路だけでなく、一般住宅地にも広がっていることを示しており、裁判での原告側の「面的汚染」の主張を裏付けている。

この判決にたいし原告側、および東京都を除く被告側がともに控訴し、舞台を東京高裁に移して争われることになった。なお東京地裁では2次～4次の裁判が継続する。特に第3次からは多摩地区の原告も提訴しており、この審理を通じて多摩地区の大気汚染状況も法廷で裁かれることになるので注目したい。(館浩道)

(単位:人) 府中でも増加するぜんそく患者(18歳未満)



都の大気汚染健康障害者医療費負担制度で認定された18歳未満の患者数(出所:都衛生局「衛生年報」各年度版データより館浩道が作図)



「足し算」から「引き算」の生活へ

セヴァン・スズキ と交流する集い

●東京農工大で

当会も共催して、標記「集い」が11月26日の夜、府中の東京農工大学で開かれ、約200名が参加して地球の今の、未来の環境問題を語り合った。

「壊した地球環境を再生する方法を知らないのならば、これ以上破壊するのは止めてください」と、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された「地球サミット」に集まった各国首脳たちの前で、当時12歳のセヴァンが語ったスピーチは衝撃的だった。

あれから10年、大学を卒業したセヴァンを日本に迎え、各地で環境運動の現場視察とそこに关わる人々との交流集会をナマケモノ倶楽部等が企画・実施し、その一環として府中での集会が実現した。

セヴァンの講演と地元府中の環境市民団体の活動報告を交え、3時間にわたって老若男女が環境問題を熱く語り合えたことは、素晴らしい出来事だった。願わくは、議論が一方的な発表に終わらずに噛みあえばよかったのだが…。

セヴァンが強く訴えかけていた「責任の認識 Recognition of Responsibility」をひとり一人が自覚し、小さなことでも一つ一つ実践していくことでしか、環境問題の解決はありえないと感じた。彼女のメッセージから、それを納得させ、実践しようとするパワーとエネルギーを与えられたように思う。

そしていま、身の回りから環境を良くしていく方途は、長年の生活のなかで無意識にもやってきた足し算を止め、引き算していく生活しかないように思える。無駄な電気のプラグを抜くように、不必要なモノを再点検する必要がある。人間関係においてもそれが必要かもしれない。そして、時間と自由を取り戻すことから、人間と自然、社会、人との新たな「つながり直し」をやってみることが大切ではないかと感じた。（吉岡 淳）



第2次世界大戦中、日系カナダ人セバン・スズキの父親デビッドはロッキー山脈のなかに隔離されていた。英語しかしゃべれない日系3世の彼の血の中に、日本人のDNAが流れているというそれだけの理由で…。

そのなかで父はロッキーの大自然から動物のこと、生態系のことを学び、彼女に伝えた。ここに、自然を愛し地球環境は人間だけのものではなく、全ての生物共有のものというセバン・スズキの原点がある。

彼女はリオサミット以前に訪れたアマゾンや、最近のカナダの先住民の暮らしに接するなかで、ますますその思いを強くし、経済的にめぐまれ、教育水準がある若者たちにたいしROR運動を提唱する。

それは、生命の循環を敬い、大切にす。民主主義と社会的公正と平和の文化をつくる。資源の浪費を控え、環境負荷をへらすことの3点である。

府中市内の環境問題と取り組んでいます

府中かんきょう
市民の会



- 市内各所のウォッチングで環境チェック
- 「レンゲまつり」など環境復元活動も
- 先進の取り組みを見学／講座開催など随時
- 市政への提案活動…市環境基本計画など

例会：毎月第2水曜、18時から「グリーンプラザ」7Fで

会費：年1500円／代表：横山 永望

連絡先：府中市浅間町4-18-12

2100

古紙配給率100%再生紙を使用しています